

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

牧会書簡／小会だより／ 礼拝式文・説教／日々の祈り

2020年4月19日（第四報）

復活主日（イースター）を迎え、どのような一週をお迎えになられたでしょうか。この喜びの時に、みなさまと顔と顔を合わせて聖餐の交わりにあずかることができなかつたことに、大きな欠けを覚えておられるかもかもしれません。牧会書簡では、その点について書きました。私たちは、命の恵みの大きさを覚えるとともに、具体的にそれを味わい、楽しみ、分かち合う生に立ち帰ってまいりたいと願います。本文集を、家庭礼拝や、祈りの手引きとしてお用いください。とくに教会のため、群れが置かれた地域のためにも、祈りを合わせてくださると幸いです。

目次

目次

牧会書簡（４）敬愛する皆さまへ～「聖餐共同体」から離れずに_____	1
小会だより（こどもの居場所づくり@府中の「おすそわけの会」について） _____	4
礼拝式文+説教「神よ、あなたの光を遣わしてください」（４月19日午前10時30分） _	6
日々の祈り「朝、目覚めた時の祈り」_____	17

牧会書簡（４）

敬愛する皆さまへ

～主の復活の喜びを保ち礼拝するために、弱い私たちが「聖餐共同体」から離れずにいるべきこと

主の復活の喜びのうちに、日々を重ねておられることと存じます……少なくとも、常に主にあって喜び歌い続けたいと願いつつ、日々を重ねておられるのではないのでしょうか。

十字架の出来事の後、もはやイエスにまみえることができない三日間、弟子たちの喪失感は何れほどのものだったでしょう。そしてその落胆の分だけ大きくなったはずの、復活の主と出会い——そのお姿を見ることができるばかりか、その御傷を目の当りにし、触れることがゆるされたこと——による喜びは、どれほどのものだったでしょう！ 私たちも早く、聖餐礼拝や教会の交わりをとおして、主との出会いを具体的に見て確信する教会生活に戻りたいと願います。

私たちの教会では、本来ならば、今年から復活主日礼拝にも聖餐を執り行うことを小会で決議していましたから、今月には5日と12日の2週続けて、主の裂かれた肉と、流された血とによって与えられた命の「見えるしるし」に具体的に与り、主の贖いと救い、御国の喜びを共に味わうはずでした。礼拝休止のこの期間に、私たちが覚える一番の欠けは、共に聖餐桌を囲むことのできないことにあります。文書やオンライン（インターネット）の動画配信によって「みことばに聴くこと」を共有し、私たちはなんとかそれぞれの場で、唯一の主を頭とする教会に連なる思いと、祈りの共同性・奉仕の連帯性を保っています。しかし、そうして数週間も過ぎた今、一人ひとりの現実として、心細さや弱さや欠けが大きくなっていると認めざるをえないことも、事実かもしれません。「いつまでですか、主よ」！ やはり、兄弟姉妹と顔を合わせ、共に聖餐桌を囲み、あのパンとぶどうの香りと味、喜びを共有することなしに、礼拝を心から楽しむことができない私たちの弱さが考慮されるなら、私たちは、毎週集まるべきなのです。

ああ、人が独りでいるのは良くありません。私たちは、しばらく集まることができない今、二人・または三人でも集まることの意味、教会がまことの意味で「エクレシア」（集会）であることの意味を、かえって教えられているように思います。教会は、散らされた場ではあまりに弱く乏しい小羊のような者たちが、嵐のような世にあっても共に励まし合い、助け合い、主への信頼を確かめ合って生きるために、他ならぬ主が具体的に集めてくださった群れでした。なかでも聖餐は、

牧会書簡（４）

みことばへの信頼がしばしば弱い私たちを強めるため、主が説教と共なるものとして制定してくださった救いの保証印です。本来、主の約束に聴くだけで完全に信頼できるのであれば、しるしは必要なかったかもしれません。しかし実際、私たちの信仰は弱く、嵐の海上ではすぐに疑い迷い、溺れそうになるので、主は救いの契約の保証を、見えるしるしをもって、私たちの体に刻み付けてくださるのです。信仰の弱い私たちは、聖餐なしではぶれてしまう、まるで疑い深いトマスです。見ないで信じる者となれるなら、どれだけ素晴らしいことでしょう。しかし、教会なしで信実の礼拝者であるような「強い信仰者」など なかなかいない、そう言わざるをえません。

ああ、なぜ、弱い私たちが今、教会から引き離されているのでしょうか。主は私たちを、この時の忍耐を経て、見ないで信じる者となるよう訓練しておられるのでしょうか。あるいはそうでなくとも、聖餐のしるしによってどれほど強められてきたか、エクレシア（集い）としての教会の共同性が、いかに私たちの信仰生活の益となるかを確認するよう、促されているとも思われます。

教会から引き離されても、たとえば病院で、あるいは囚われの場所で、御国に生きる確信をもてる、そのような信仰を生涯保つことができるなら、最高です。しかし、私たちが今自覚しているような「弱い信仰」を主が放っておかれたいと知ることができるなら、その喜びもまた、私たちには最上のものだと思うのです。私たちは今、主が最高の羊飼いであられ、この方のもとにある人生こそ最も喜ばしい、との信頼を保たれていることを感謝したいと思います。そして、弱い私の信仰を告白し、主が今も聖餐共同体に連なる喜びから引き離さず、群れに立ち帰るよう招いてくださっていることを希み、信じたいと思います。やはり、私たちはまた集うべきです。私たちには教会が必要であり、礼拝はできるだけ早く再開されるべきだと思います。「いつまでですか」と主に問いながら、兄弟姉妹の再会と、聖餐礼拝の再開を期して祈りを重ねたいと存じます。

そのうえで私たちは、いずれ病に倒れたり、老いのため体が動かなくなったり、さまざまな理由で教会から本当に引き離される日に、私たちがどのような信仰者であるのかが明らかになることを、覚えておきたいと思います。その日、私たちは聖餐に与れないままの現実のただ中で、主のみことばへの信を問われます。そこでももちろん、御国の民として「強い信仰」に生きることができるなら最高です。しかし、そうでなくとも、私たちが決して一人ではないこと、聖餐の目に見える共

牧会書簡（４）

同性になおも連ねられていることを確認できるなら、そのからし種のような信仰によってさえ、私は命の慰めを得るでしょう。今は、そのような時のために、主にある教会の共同性を強めるための契機なのではないでしょうか。

すでに昨年来お知らせしているように、小会では、訪問聖餐の実践について、具体的な協議を始めたいと申し合わせています。家庭や病院・施設等へ牧師と長老が赴き、聖餐の恵みを共にするという事です。目下の感染症の脅威が去ったなら、普段教会に来ることができずに不安を覚える兄弟姉妹が、聖餐共同体に連ねられた確信をもって日々を歩むことができるように、新しいあり方を実践しても良いのではないかと、今改めて思わされています。早く皆さんにお会いしたいと願い祈る中、私自身欠け多き者だと自覚しつつ、主の群れが「弱い信仰者」のために集められたものだとか確信させられているからです。主の群れに一たびでも連ねられた者たちが、みことばの「見えるしるし」によって群れの内に保たれ、たえず御国を仰いで主に信頼し、「生きるにも死ぬにも」慰めを得ることができるよう、との願いを新たにされます。

どうぞ、今すぐにでも集まるべきところを「命への畏敬」（感染症拡大防止）の故にしばらく忍耐しなければならぬこのとき、みなさんの家庭礼拝においては、主の十字架の出来事を想起・記念する聖餐の喜びを想起して、過ごしていただきたいと



存じます。（右の写真だけではどうしても不十分ですが、なんとか）聖餐の味わいを思い起こし、このときをどうか忍耐してください。主にある忍耐は希望に通じます。希望をもって祈り続け、ついに本当に再会してあの聖餐桌を共に囲む日をむかえることができるとき、私たちの喜びは、復活の主にまみえた弟子たちと同じほどに、大きなまことの喜びとして確認されるはずです。

2020年4月16日 府中中河原教会 牧師 大石周平

小会だより ～こどもの居場所づくり@府中の「おすそわけの会」

— 4月19日（日）午前11時30分から、2020年度第2回臨時小会（スカイプ利用によるオンライン会議）が開かれます。決議事項は、おもに以下の2件。

1. 5月の礼拝その他の予定の件

2. 4月19日（日）午後1時～4時、こどもの居場所づくり@府中による「おすそわけの会」（フードパントリー）に、当教会ホワイエ等を会場として提供する件

- 上記1に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から協議がなされません。先の政府による「非常事態宣言」は、ゴールデンウィークまでを目途に出されたもので、その後の見通しはなお不透明です。教会としては、東京都の感染者数の拡大の現状を鑑み、活動休止措置を継続すべきか、主体的な判断が問われるところです。
- なお、牧師が講師として教えている明治学院大学では、4月から5月半ばまで、オンライン授業を継続することを決め、その後も非対面のあり方を続ける可能性を開いています。日本キリスト教会神学校は、4月13日の入学式を中止するとともに、「非常事態宣言」の期間は授業を行わない旨を告知しています。
- 上記2に至った経緯：牧師大石周平は、先週の「日々の祈り」（第三報）に促され、4月10日（金）の主のご受難を覚える日に、「教会と地域の子どもたちのため」に祈るにあたり、2016年のオープンチャーチ以降交流を重ねる福祉団体「こどもの居場所づくり@府中」による目下の活動状況を確認した。すると、府中市内の全てのこども食堂は休止中だが、ひとり親家庭をはじめとして、生活に困窮する方々のためのフードパントリーが行われていること、しかし目下4月19日の会場が決まっていないことが判明。代表者に連絡して事情をうかがうと、美好町の一会場に打診中とのこと。ボランティアスタッフは4名ほど、時間を細かく区切って予約制とし、換気・消毒を徹底した会

小会だより ～こどもの居場所づくり@府中の「おすそわけの会」

場において、予めまとめていた食材を持ち帰っていただくという活動内容と、会場として準備すべきは受付や食材を置くための机のみとのことを確認。小会決議によっては当教会を会場にする可能性がある旨伝えたところ、教会近く在住のスタッフもおられ、住吉・四谷・日新町のエリアでの開催を望みながらこれまで叶わなかったとのことで、可能なら会場を借りたいとの申し出があった。長老4名とこの件を4月11日（土）にメール協議のうえ、全員一致で会場提供承諾を申し合わせた。ただし、正式には、すでに予定されていた4月19日（日）午前の臨時小会で決議するため、午後の開催としていただくことをお願いすることとした。なお、牧師がこの件の担当となり、会場のはじまりと終わりの鍵を管理するが、活動それ自体の手伝いは、今回は誰もしない予定である。

食料品無料配布の会
フードパントリー
おすそわけの会

この活動は府中市内の子ども食堂のネットワーク、
100人子ども食堂の活動です

市民活動センタープラットフォーム登録団体
こどもの居場所づくり@府中

新型コロナウイルスの感染の影響による
臨時休校、休職でお困りの家庭に食材の
配布会をします。

4月19日(日)
13:00～16:00
場所：府中中河原教会
(府中市住吉町4-47-16)

申し込みありませんが数に限りがあるため
対象はひとり親、子育て中の経済的困窮家庭とします

感染を予防するため人数配分します。
必ず下記よりご予約をお願いします。
ご予約のない方はお受け取りできません。

こどもの居場所づくり@府中
<http://ibasho-fuchu.jimdofree.com>

問い合わせ
ibasyo.fuchu@gmail.com

☎ 090-1805-3977 (南澤)

- 上述のとおり、緊急の判断が必要である中、小会メンバーの合意がたしかに確認されたため、小会決議前であっても、公的な案内に教会名を載せていただくことは問題ないとみなされる。「こどもの

居場所づくり@府中」のホームページ上 (<https://ibasho-fuchu.jimdofree.com/>) で確認されるとおり、すでに4月12日（日）から、教会名をのせた案内が、公的になされていることは、小会メンバー全員が確認をしている（画像は同ホームページから）。

——以上。お祈りのうちにお覚え下さり、必要な方へ情報を回して下さると幸いです。

礼拝式文・説教「神よ、あなたの光を遣わしてください」

4月19日（日）午前10時半から、私たちの命の主を仰ぎ、御名を崇めましょう。今回は、「詩編42～43」講解説教の第四回目となります（『聖書 新共同訳』（聖書協会1987）を使用）。日本キリスト教団出版局による「説教黙想アレテイア 詩編24－51編」（2019年105号）の中の、私自身の釈義と黙想が土台となった説教です。礼拝後、できるだけ早く礼拝動画の配信もいたしますので、教会ホームページ上で更新される「最新のお知らせ」をご確認ください。心を高くあげ、今ここに語りかけてくださる主のみことばに、ご一緒に耳を傾けたいと存じます。〔牧師 大石周平〕

招詞 新約聖書ヨハネによる福音書5章19、24～29節

——主の御前に心をしずめ、みことばに聞くことからこの一週をはじめましょう。

「イエスは……言われた……『はっきり言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また裁かれることなく、死から命へと移っている。はっきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。父は、ご自身の内に命を持っておられるように、子にも自分の内に命を持つようにしてくださったからである。また、裁きを行う権能を子にお与えになった。子は人の子だからである。驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出てくるのだ。……』」

讃詠 546

——ご一緒に、讃詠546番（『讃美歌』1954年版）を歌い、主の御名をたたえましょう。

「聖なるかな……昔いまし今いまし、とわにいます主をたたえん。アーメン。」

祈祷 罪の告白と赦し／聖霊の照明を求める祈り

——全能の神の御前に、私たちの罪を告白し、赦しを求めて祈りましょう。

「全能の父なる神よ、主の御受難を覚えるこの週のはじめに、愛する兄弟姉妹と共に、同じ時に、ひとつのみことばに聴き、祈りをささげる機会を与えてくださることを、感謝いたします。どうか、あなたが親し

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

くこの祈りの共同体の只中にお臨みくださり、聖霊をもって一人ひとりの心を照らし、あなたの義と愛と真とによって満たして下さいますように。

主よ、わたしたちは、みことばに飢え、渴いています。今・ここに、いっそうの不安に揺れる私たちに、語りかけてください。罪のこの世にあって、また、この身にあって、わたしたちは、あなたの御心に反する方向に決定的に傾いており、あなたの命の御言葉によって新たに生きることがないならば、死の陰の谷に転がり落ちてしまうような者たちです。過ぐる一週の歩みの中で重ねてしまった罪を思っても、私たちはあなたの御前に恥じ入り、あなたの一方的な恵みにすがって、赦しを祈り求めるほかありません。私たちは、あなたの招きにもかかわらず、あなた以外の諸力に従い、襲い来る見えない不安に支配されて生きていました。みことばに聴かず、祈ること少なく、ただ自分の思いによって歩み、主なるあなたと隣人へのひたむきな愛に生きることをしなかったのです。

主よ、私たは今こそ、ここに、十字架の主をあおぎ、悔いし砕けし心をもって、御前に罪を告白し、弱い私のすべてをあなたにお委ねします。どうか私たちを憐れみ、赦し、癒してください。まことにあなたは、罪びとを招き、失われた者を探し求めて、ついには見出し下さるお方です。御子イエス・キリストをお遣わしになるほどに、世を愛して下さったお方です。御子は十字架上で、あなたの憐れみにみちた救いの御計画を、成し遂げてくださいました。どうか今、御子の十字架の血によって私たちの罪を拭い去り、汚れを洗い清めてください。救いの喜びをもって私たちを満たし、御霊を注いで私たちを聖別し、全世界にいるあなたの子らと共に、感謝をもって御名をほめ讃え、礼拝する者としてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。」

聖書 旧約聖書詩編 4 3 編 1～5 節

——聖書に記された神のみことばに聴きましょう。旧約聖書詩編 4 3 編 1～5 節です。

「神よ、あなたの裁きを望みます。わたしに代わって争ってください。あなたの慈しみを知らぬ民、欺く者／よこしまな者から救ってください。

あなたはわたしの神、わたしの砦。なぜ、わたしを見放されたのか。なぜ、わたしは的に虐げられ／嘆きつつ行き来するのか。

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

あなたの光とまことを遣わしてください。彼らはわたしを導き／聖なる山、あなたの
いますところに／わたしを伴ってくれるでしょう。

神の祭壇にわたしは近づき／わたしの神を喜び祝い／琴を奏でて感謝の歌をうた
います。神よ、わたしの神よ。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。／神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう 『御顔こそ、わたしの救い』と。／わたしの神よ。」

(アーメン)

説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

詩編 4 2 編は二部に分かれ、第三部である 4 3 編へと向かって行きます。一続きで
全三部の詩編です。4 2 編 7 節後半から始まる第二部では、第一部同様、谷川の
情景と重ねながら、もだえつつ打ち沈む魂の描写がなされていました。その中で、谷川が
象徴する苦しい現況は変わらないとしても、なお神を「わが神よ」と呼ばわって「思い起こ
す」ことに心が向かいます。9、10 節まで読み進めると、その想起が、現在の祈りと歌
を生み出すものと言われています。私たちは先週、8 節までの、死さえ思わせる魂の描
写から、9 節の、生き活きとした讃美に生きる魂の今へ、その間の大きな飛躍に注目し
ました。そこで、神信頼によってなされる命の大転換の奇跡を見た私たちキリスト者は、
イエス・キリストの復活の出来事によって、私たちの死の現実から命への希望が開かれた
ことを思い起こさずにはおれませんでした。

今日は、その復活の希望を胸に、詩編 4 2 編から 4 3 編への展開を丁寧に追いか
けることができればと思います。

——振り返り： まずは思い返してみましよう。第二部においては、谷川（や涙）の水
のイメージを第一部から引き継ぎつつも、また全然違うイメージで、魂の困窮が表現され
ていました。つまり、夏の涸れ谷にあえぐ鹿のイメージによって、飢え渴き 息も絶えだえな
魂の様子を描いたのち、第二部では、渴くどころか突然の「激流」となって溢れてきた轟く
水に、魂は呑み込まれ、息は詰り、打ち碎かれて沈み込むイメージが展開します。こうし
て、詩人の魂を襲う混沌や死が、新たな視点から見つめなおされることになりました。

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

思い出していただきたいのですが、ここで「打ち沈む」魂をもった詩人は、ヘルモン山系の雪解けの鉄砲水などとして突然押し寄せた流れに砕かれ、波に呑み込まれているようだと言っていました。ヘルモン山の位置については、新共同訳聖書の巻末の付録では、「3」の地図を見ていただければ（地図と詩編の時代は異なりますが）、それがエルサレムとは遠く隔たった北の山であることがわかると思います。詩人はこの山を中心とした山脈のうちの、ミツアル（ミザル）——すなわち小さな山と呼ばれる、今となっては正確な位置のわからない山——のふもとで見た光景を、自らの魂の情景に重ねていました。この人は、神讚美の喜びが共有される恵みの座からは、最も遠く離れた場所にいる、と自覚していたのです。

谷川は、激しく流れて命を奪ううねりの場となり、生けるものが、そこにひとたび呑み込まれてしまえば、深淵が呼び込む深淵によってなお深みにはまり、白波をたてる波また波に上から呑まれ、押し沈められていきます。神の礼拝の場に帰るところか、生きて確かな地平に立つこともかなわないと思われる情景描写です。

先週、わたしたちはここに、神から離反した結果、嵐に巻き込まれ、潮の流れに呑み込まれた預言者ヨナの、「陰府の底」における死ぬほどの魂の様子を想起しました（ヨナ二・三以下）。詩編第二部は、ヨナが経験した苦難がそうであったように、直面する死と滅びとが、自らの離反に対する神の怒りによるものだったとほのめかしていました。詩人の魂を呑み込む波また波は、まるで神の呼び声にこたえて激しさを増すようだ、と言われていたとおりです。第一部と異なる第二部の強調点は、ここにあります。つまり他ならぬ神が、私たちの「さばき主」として、この不条理とも思える苦難の現実を引き起こしておられる、あるいは少なくともこの状況を見ていながらそのままにしておられるのではないか、ということです。詩人にとって、苦難は、単なる不条理ではない、神が見ておられるはずの不条理です。だとすれば、不条理がこのまま私の魂を呑み込んだままでいるとき、問題は、他でもない神が、私の滅びを良しとされているのではないか、ということ。なぜなのでしょう。あるいは、私の属するイスラエルの罪に対する神の怒りが、この不条理の原因なのでしょうか。いずれにしても、神の憐れみの信実を照らすとき、このままで良いはずがありま

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

せん。わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか。そう叫ばれたイエスの十字架の言葉を思い出さずにはおれない詩編だと、あらためて思われます。

しかし、第二部の結論は、このまま死が死で終わるのではない、不条理は不条理のまま放っておかれるものではなく、神の怒りは永遠に続くものではない、というものでした。本詩編から自然と連想された預言者ヨナのことをもう一度想起すべきでしょうか。この預言者は、死と滅びを覚悟したその先に、ほんとうに誰にとっても信じられないような驚く仕方で（彼の場合は大魚に呑み込まれるという仕方で）、神によって救い出され、死の淵に沈んでしまった三日後に、命の地平に立つことをえたのです。そしてヨナが本来のつとめを果たしたとき、罪深い異邦人の都でさえ悔い改め、神の義と愛に立ち帰ることになる、として、ヨナ書は悔い改めた異邦人の救いにまで、お話しを展開していくこととなります。私たちは、このヨナのしるしが指し示していたイエスの死もまた、誰もがおどろくべき仕方で命へと転換し、民全体の救いに繋がっていったことを思い起こしました。

死してなお、命の道が開かれるという視座、憐れみの神ならば、その道を用意して下さっているという信仰がそこで示されたわけです。そこから、もう一度私たちの苦難の現実のただなかにおける希望を取り戻す作業が始まったのでした。

詩編 4 2 編の詩人もまた、9 節によれば、神がこのまま怒り続けられる方ではなく、むしろ怒りをついに凌駕する慈しみと憐れみに富みたもう、イスラエルの救い主、死からの解放者なる主であられることに立ち帰り、もう一度、最後の最後の望みを抱きました。その希みが死に臨んでも放棄されない以上、たとえ神が今お怒りになっていると思わざるをえないとしても、詩人は今神の慈しみを讃えることができるのです。昼祈り、夜歌い、詩人がかつて信じたように、ただ主のみにこの嵐を過ぎ去らせる力があることに、彼は、神に立ち帰った者として、もう一度よりすがり、御前に向き合うのです。

先週取り上げることができませんでしたが、第二部では、そのようにして神の御前に立ち帰り、最後の望みをもって立ち上がった詩人が、もう一度神に訴えの声をあげている様子が伝えられています。

「なぜ、わたしをお忘れになったのか。なぜ、わたしは敵に虐げられ／嘆きつつ歩くのか」。

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

これは、「わたしの岩」つまり最後の避けどころであり力である方を、最後まで私の味方だと信じて継るからこそ絞り出された、信頼に基づく訴えの言葉です。神が慈しみと憐れみに富みたもう御方ならば、なぜ、あなたの慈しみに立ち帰るわたしをお忘れになったままなのか。なぜ、不条理にも敵に虐げられたまま放っておかれ、嘆きつつ歩く道にあって救いの御手を差し伸べてくださらないのか。この段階までできますと、詩人の訴えは、ヨナよりもむしろヨブを思わせるものになってまいります。

ヨブは、神の御前に自分の正しさを訴えた人でした。そして、たとえ同じ神を信じる同胞がもっともらしい理屈を語って私を断罪しようとしても、神が私を最終的に断罪なさるまでは引き下がらず、希みを棄てることはない、という態度を貫きました。同じように、詩編 4 2 編の詩人は、神が憐れみの神であると同時に、ほんとうに正しくさばくことをなさるはずの、義の神であることにも最後の希望の根拠を置いているように見えます。

実際のところ、詩人は、だれかかつては共に礼拝をした同胞から、裏切られるようにして裁判にかけられた人だったのかもしれませんが。詳細はもちろん全くわからないのですが、あるいは世の裁判で有罪判決を受け、それで、イスラエルの民としての権利をばく奪され、遠く離れた北の地に、追放されるなり、逃れるなりしていたのかもしれませんが。たしかに、彼にも欠けや過ちはあったことでしょう。しかし、今、彼は、神の憐れみに立ち帰った者として、神に縋りつつもういちど御前のさばきに臨もうとしています。いや、もうそうするか、この人の訴えが取り上げられるすべは他にないのです。私はあなたの憐れみに立ち帰りました。あなたは私を赦したまい、けっしてお見捨てにならないはずで。なのになぜ、私はなおも神の礼拝の場から引き離され、人々に否まれ、あざけられ、嘆きつつ歩かなければならないのでしょうか。あなたとの関係を回復されるとき、人々との関係もあなたの義と愛の物差しによって、もういちどふさわしくはかりなおされるべきではないでしょうか。

第二部の訴えるような詩人の問いは、続く第三部でも引き継がれます。そこでは大胆な嘆願が、神に向かった「直訴」のイメージで表現されていることに注目してください。

「神よ、あなたの裁きを望みます。わたしに代わって争ってください。あなたの慈しみを知らぬ民、欺く者／よこしまな者から救ってください。」（43：1）

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

この43編1節に至っては、「あなた（主なる神）の慈しみを知らぬ民」の有様が取り上げられています。「慈しみを知らぬ」とはより厳密に直訳すれば「慈しみなき」「愛も忠実さもなく」ということです。42編9節と、43編1節を見比べますと、「慈しみの神」と「慈しみなき民」との明確な対比がなされていることがわかります。愛の神にあい対する愛なき民。この民がイスラエルのことだとれば、神と結んでいたはずの、愛を尽くし誠実を尽くすという約束、つまり契約を、民のほうから破ってしまっているような状態だということです。同じ民について、「欺く者」だとも言われます。これは、公的な場、とくに裁判の座での偽りの証を意味する言葉であり、イスラエルがそれをもって神と契約関係に入った「十のみことば～十戒」の具体的な違反、それによる神への背反を思わせる言葉です。

さばき主なる神に立ち帰り、その憐れみにすぎる詩人は、この民の不誠実をもはや見逃すことができません。そこで、神の憐れみによって私を照らしてくださったように、私に敵対する者たちにも、やはり真理を伴う光を当てるべきだと訴えるのです。「わたしに代わって争ってください」と翻訳されている1節は、直訳すると「私の訴えを訴えてください」となります。これはやはりヨブを思わせる、かなり大胆な直訴の言葉です。あなたご自身が本来自ら問題になさるべき訴えを、私は訴えています。私ではなく、あなたが訴え裁くべきです、という主張です。

なお、ここで一つ整理しておきたいことがあります。「裁き」という言葉がもつ響きについてです。「神の裁き」といいますと、恐ろしくて、避けておきたいような思いがするかもしれませんが、そこには誤解があるかもしれません。世の裁判で不当な判決を受けて悩む者の立場で、その裁判が正しくやり直されるような場合のことを想像してください。そのような場合であれば、公正な「裁き」がなされることは、たとえば不当な断罪で追放の憂き目にあった者にしてみれば、そこで改めて出される判決は、「救い」となるのではないのでしょうか。あるいは、冷酷な法の執行者というよりも、誠実で情状酌量の余地もしている信頼に足る裁判官があらためて、人間そのものへの憐れみにたって裁判をはかりなおしてくれる場合ならば、そのとき、裁き主に対して裁かれた弱い者が抱くのは、感謝にほかなりません。正しく更生することを見通して罪の赦しが宣言されるような場合のことです。

神の裁きは、このように、世の法の保護の外（アガンベンのいう「例外状態」）にあって苦しむ者には、世の中の最高裁を超えた最後の砦となるべきものと詩人は教えてく

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

れているのではないのでしょうか。詩編 4 3 編の詩人にとって、最後の望みは、この正しく愛に満ちた神の判決のみにあります。この人は、義に基づいて真実を明るみに出し、かつ憐れみに富む判決の「光」によって名誉を回復され、離散の地から呼び戻されて、神の臨在するシオンの聖所に近づく権利をも回復されることを期待して、最高に信頼できる裁判官に訴えているのです。

さて、3 節には、「**聖なる山**」という言葉があります。都エルサレムとその神殿の丘のことですが、「聖なる」というからには宗教的なイメージで、さばき主なる神の現臨の場として、その山が思い起こされているのでしょう。遠い地のヘルモン山系のどの山々よりも、この山は神がいますゆえに輝いているのです。

聖なる裁き主の臨在の地に、いまや詩人は導かれていきます。ここで描写されるのは、神の判決によって、ついに名誉を回復された幸いなものたどる道です。穢れなき光に導かれた詩人は、神から最も遠くはなれ、それゆえ神の民の礼拝から引き離されていた場所から、神に最も近い聖なる場所へと導かれていきます。かつてそうであったように、詩人は、神の祭壇に向かい、人々と共に讃美の捧げものをするつとめをも回復されることになるでしょう。そこでは、詩人のリードによって歌う神への讃美礼拝が、詩人と同じように顔を輝かせた共同体とともに、回復されていくかのようです。畳句の「御顔こそ、わが救い」という言葉で表されてきた神の輝きのイメージが、そこに集う礼拝者一人ひとりの顔の輝きのイメージとして広がっていきます。神の御顔の輝きを仰ぎ、同時に、その光に照らされつつ讃美を歌う共同体のひとり一人の顔が輝く様子を思い浮かべてください。詩人がずっと慕い求めてきたのは、この神の共同体の礼拝だったのです。

最後に、もういちど第一部から第三部までのイメージの大転換を思い起こしてみてください。乾ききった魂の谷川が、混沌と死の表象となって突然同じ魂を襲ってきました。しかし、礼拝の場から引き離され、ついに神からも引き離されていると感じる中で、詩人はかえって御前に立ち帰り、最後まで、歌うことをやめませんでした。「**なぜうなだれるのか、わたしの魂よ。なぜ呻くのか。神を待ち望め。**」 そういつて、繰り返し歌い、魂を襲う世の不条理に抗ってきたのです。そうしてついに、私の弱さにもかかわらず、そして世の不誠実、とくに神の民のみことばへの不忠実な現実にもかかわらず、神が最後に憐れみをもって、御顔をむけ、救いと和解の判決を下してくださるとの希望が残ったのです。「**わたしは**

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

なお、告白しよう（讃美しよう）、『御顔こそ、私の救い』と。わたしの神よ」。まことに、神はこのようにして「わたしの神」「わたしの命の神」であられました。そう告白する私が気が付くと、私はもういちど、顔を輝かせて歌う共同体のただ中に立っていたのです。今や鹿が喉を潤し嬉しそうに天を仰ぐとき、同じように歌う群れが、神への感謝のうちにひとつとされたのです。

私たちも、この詩人の讃美告白に、共に立ちたいと願います。そして、この大転換をもたらしてくださった命の神を、今すぐるべき最後の希望として生きていきたいと思えます。この命の道の初穂として、私たちとしてはさらに具体的に、主イエス・キリストの死と復活の出来事を思い起こすことができます。神が遣わして下さったまことの光とは、御子のことでした。この光によって罪びとは神の裁きにおいて赦しの判決を受け、低いものが高められ、高ぶるものが低められるという義を目の当りにしたのです。今や私たちはこの詩編を、復活者に結ばれた者の賛歌として、歌いなおすことができるでしょう。イースターに感謝して、「わが岩」「わが救い」「わが命」「わが喜び」なる主をほめたたえましょう。

祈禱 感謝／執り成しの祈り

全能の父なる神よ、あなたは天と地とその中にあるすべてのものを作り、これを保ち、支え、くすしい御旨（みむね）をもって導いておられます。またあなたは、今もなお私たちのただ中で大いなる御業を行い、キリスト・イエスの救いにあずからせ、あなたの御元に立ち帰った私たちの魂を、聖霊によって満たして、新しい命の希望のうちに生かしてくださいませ。私たちはいと低きものたちですが、あなたの御業を思い、わたしたちに豊かに確かに注がれている慈しみを思い、御名をほめ、心からの感謝をささげます。

神よ、いま新しい局面にあって、ただ十字架の主にすがり、祈りつつ歩み出した私たちの群れを、顧みてください。あなた以外のものに、とくに恐れと不安、不満と高慢に支配されることなく、あなたの御子の救いの真理を常に私たちの目の前に覚えて歩むことをえさせてください。

私たちと同じ困難に直面している近隣の諸教会を、そして全世界にあるあなたの教会の歩みを導いてください。とりわけ日常の生活を奪われた中でささげられる礼拝を、あなたが祝福して下さいますように。主の体なる教会を励まし、あなたが負いやすくして下さるそれぞれの軛を、確かに担うことができますように。あなたの福音をすべての人々に、とりわ

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

け不安のただ中にいる人々に、宣（の）べ伝えさせてください。悲しむ者とともに悲しむ仕え人を、働き人をお遣わし下さい。

主よ、あなたは、私たちすべての者の必要をご存知であり、それを完全に満たしてください。心身の病に苦しむもの、とくに入院中の姉妹たちを顧み、励まし、支えて下さい。愛するものを失い悲しむ者、多くの悩みのうちにたたずんでいる者みなを慰めてください。貧しさの中で叫ぶ者、飢え渴いて求めるものを満たしてください。争いの渦に巻き込まれているもの、見えない敵と戦う医療従事者、ゆえなく囚われている者、圧迫されている者、災害後の痛みを負い続けている者を自由にしてください。重責を担っている者、とくに、国々の代表者、人を裁く立場にある者、こどもたちに教えるつとめをになっている者、宗教者、人の上に立っている者が、あなたに対し、真理に対するおそれをもって、事にあたることができますように。新しい歩を始めようとしている子どもたち、若者たちの成長を見守ってください。年をかさねた者たちをはじめ、すべての者を、あなたにある平安のうちに憩わせてください。

どうか私たちが御手の導きの内においてくださり、今日からはじまるこの一週をあなたにささげ、それぞれの生活の場、それぞれ遣わされた場所であなたに仕える者として歩ませてください。そのうえですべてを、あなたの栄光のもとに照らし、御国の完成に役立ててください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

信仰告白

——使徒信条によって、私たちの信仰を言い表しましょう。

「我は、天地の創造主（つくりぬし）、全能の父なる神を信ず。

我は、その独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。

主は、聖霊によりてみごもられ、処女（おとめ）マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦難（くるしみ）を受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死者の内より復活し、天にのぼりて全能の父なる神の右に坐し給ふ、かしこより来たりて、生ける者と死にたる者とを審き給はん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、体の復活、永遠の生命を信ず。アーメン。」

礼拝式文・説教 「神よ、あなたの光を遣わしてください」

奉献と祈祷

——主の恵みに対する私たちの感謝と献身のしるしとして、献げものを献げましょう。

(家庭礼拝で席上献金をなさる場合、教会では、礼拝休止措置が終わった後の最初の礼拝でまとめて受付いたします。維持献金やイースターなどの感謝献金、特別献金も同様になります。)

主の祈り

——（「献金の祈り」に続いて声を合わせて）

「天にまします我らの父よ、願わくは、み名をあげさせたまえ。み国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用のかてを、今日も与えたまえ。我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄とは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。」

頌栄 539

——頌栄539番を歌い、主の栄光の御名を讃えましょう。

「あめつちこそりて かしこみたたえよ、みめぐみあふるる 父、み子、みたまを。
アーメン。」

派遣と祝福

「平安のうちに行きなさい。希望と喜びのうちに主に仕え、すべての人に愛を伝えなさい。主イエスは世の終わりまであなたがたと共におられます。」

「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし／あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。アーメン。」

——以上で礼拝を終わります。報告:「小会だより」をご覧ください。

日々の祈り 「朝、目覚めた時の祈り」

教会による「日々の祈り」。須藤洋子長老が寄せてくださった祈りに基づき「朝、目覚めた時の祈り」として整えたものをお届けします。私たちは「主は生きておられる！」との報せのうちに新しい「朝」を迎えました。御前に明けない夜はないことを喜び、朝ごとに「主の祈り」を祈りましょう。新たなる命の希望をもって御名をほめ讃え、祈りに祈りを重ねましょう。

主イエス・キリストの父なる神様、御名を讃美いたします。

主の復活を心から感謝いたします。今年は復活主日に教会に集うことができず、私自身は自宅で一人きりでイースターを迎えました。しかしあなたの導きによって、動画による礼拝にあずかることができましたことを、心から感謝いたします。そのため労を担われた大石牧師とそこご家族に、あなたの祝福をお祈りします。病床にあるお二人の姉妹をはじめ、それぞれの場所で今朝も祈りを重ねる兄弟姉妹とともに、心高くして命の喜びを分かち合い、終日（ひねもす）みことばに聴きながら、祈り歌う者としてください。

——鹿の涸れ谷に あえぐがごとく / わがこころ切に 主を慕うなり
生ける神をば 求めて渴く / 御まえにいずるは いつの日ならんや——

主よ、私たちは、ふたたび顔を合わせて御前に集う朝を、待ち望みます。今、世界中が新型コロナウイルスによる感染症のために、医療はもとより、経済界の上にも、あらゆる生の現場で、史上例のないような困難の中にあります。どうか、医療に携わる方々の上に、主の御支えがありますように。一日も早く治療薬の開発が進み、一人ひとりの大事な命が救われますようにと切に祈ります。

どうか、不安や死に直面している一人ひとりに、教会が、新しい命の朝の喜びを、宣べ伝えることができますように。一人ひとりを、今日もあなたのみことばの仕え人としてください。あなたを愛し、隣り人を愛し、あなたが与えてくださった命の道を歩む一人ひとりとなることができますように。私たちの命なる主よ、そのためにどうか私たちの必要を、今日も満たしてください。御霊を送り、私たちの身も心も魂も、あなたの豊かな恵みで満たし、今日一日をあなたへの溢れる感謝と、讃美の歌で満たしてください。

——なんぞ乱るるや、わが魂よ / 神を待ち望め 心をあげよ
御顔の助け なおわれにあり / わが神、わが主を ほめたたえまつらん ——

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

【韻律詩編：『改革教会の礼拝と音楽』編集委員会編『みことばをうたう』（「礼拝経典」第二部・改革教会礼拝歌集、エルピス、2006年）より、ジュネーヴ詩篇歌42：1，3】